

日本ペインクリニック学会 第59回学術集会

会期 2025年 7月10日(木)～ 12日(土)

会場 TAKANAWA GATEWAY Convention Center
東京都港区高輪2丁目21-2

会長 安部 洋一郎 先生(NTT東日本関東病院 ペインクリニック科 部長)

テーマ 未来に繋ぐ知識・知恵・技術

ランチセッション7 コンドリアーゼ注入療法の 実際と今後の展望

Luncheon Seminar 7

Current progress and future perspective of intradiscal injection with condoliase

健康保険検討委員会後援

ヘルニコアセミナー

※裏面の受講確認に関する留意事項も
ご覧ください。

日時 **7.11** 2025 **金**
12:40～13:40

会場 **第4会場 (Conference Hall A1)**
TAKANAWA GATEWAY Convention Center 6F
東京都港区高輪2丁目21-2

座長 仙台ペインクリニック 院長
伊達 久 先生

演者 東京科学大学 整形外科学分野 准教授
平井 高志 先生

健康保険検討委員会後援

ヘルニコアセミナー

コンドリアーゼ注入療法の**実際と今後の展望**

Current progress and future perspective of intradiscal injection with condoliase

腰椎椎間板ヘルニアに対する新たな低侵襲治療の薬剤として2018年に上市されたコンドリアーゼは軟骨基質であるグリコサミノグリカンに特異的に作用し分解するものである。このコンドリアーゼ椎間板内酵素注入療法は、治験を含めて現在まで数多く行われてきた臨床研究において良好な成績が報告されてきた。かつて使用されたキモパインとは異なり、重篤な合併症を含めた副作用が少なく、腰椎椎間板ヘルニアの神経根性疼痛に対して除痛効果が得られることが分かってきた[※]。速やかに下肢痛の除痛が期待される内視鏡下ヘルニア摘出術を代表とする手術療法と比較し、入院期間や医療費の面で有利であり、青壮年の罹患者が多いことを考慮すると、就労制限の少なさや医療費の低減といった社会的なメリットも大きいと考えられる。多くの研究により、コンドリアーゼ注入療法による日常生活動作を障害させる神経根性疼痛に対する治療成績や、予後因子も分かってきた。本講演ではコンドリアーゼ市販後にわかってきたエビデンスと治療を選択する患者側からの視点も交えてコンドリアーゼ椎間板内注入療法の実際と今後の展望について議論したい。

※) Huang Z, et al. Front Pharmacol. 2023; 14: 1151998.

東京科学大学 整形外科学分野 准教授

平井 高志 先生

日本ペインクリニック学会 第59回学術集会

The 59th Annual Meeting of the Japan Society of Pain Clinicians

● 留意事項

本セミナーは、下記の医師要件③に記載の「学会が指定するセミナー」に該当し、健康保険検討委員会の後援で開催します。

どなたでも受講いただけます*が、入退出時に日本ペインクリニック学会会員証QRコードを会場出入口の受付端末にかざしてください。

受講証は会期終了後1ヵ月程度で学会ホームページ/会員マイページにてダウンロードが可能になります。

(受講時点で他の要件を満たしていない場合も受講記録(受講証)を残せます)

*第59回学術集会の参加登録は必須となります。

【日本ペインクリニック学会 医師要件】

- ① 日本ペインクリニック学会 ペインクリニック専門医
- ② 透視下神経ブロックの経験が50例以上(椎間板穿刺の経験を10例以上含む)ある医師
- ③ 学会が指定するセミナーを受講した医師

医師要件の他にも施設要件が設定されております。

最新の情報は日本ペインクリニック学会ホームページ/
会員マイページ(<https://jspc.gr.jp/private/hernicore>)
よりご確認ください▶

